

被爆 80 年・被爆者とともに、

核兵器のない世界、非核平和の日本の実現をめざして歩こう！

ロシアのウクライナ侵略から 4 年、イスラエルによるガザ・中東での殺りくと戦闘、ロシアの核ドクトリン改定など核使用を含む危険な事態がいまなお続いています。台湾・米中関係、朝鮮半島の現在の緊張、アメリカが主導する日本を含む軍事ブロック的対応と大軍拡など、「軍事」対「軍事」、「核」対「核」の危険な悪循環が世界を分断し、平和を脅かしています。

しかし、いまの世界は一部の大国によって支配される時代ではありません。国連憲章と国際法に基づく紛争の平和解決、核兵器廃絶を求める流れが世界の平和の本流です。平和を求めて団結し、軍事ブロックや自国第一主義ではなく、国連憲章を擁護する立場から行動しています。

その中で、「希望の光」となっているのが核兵器禁止条約と日本被団協のノーベル平和賞受賞です。核大国の妨害にもかかわらず、核兵器禁止条約の署名国は国連加盟国の過半数に迫る 94 か国、批准国は 73 か国にひろがっています。

日本被団協のノーベル平和賞受賞への支持と共感是世界中にひろがり、核兵器禁止条約への参加を求める運動に勢いを与えています。

最大の焦点は、唯一の戦争被爆国にふさわしい役割を日本政府に果たさせることにあります。石破茂首相は第 217 回通常国会の施政方針演説で、日本被団協のノーベル平和賞受賞も、1 月 22 日に発効 4 周年を迎えた核兵器禁止条約にも一言も触れず、日米軍事同盟(『核の傘』)のいっそうの強化を表明しました。そして、日本政府は核兵器禁止条約の促進決議に 7 年連続で反対票を投じ、目前に迫った核兵器禁止条約第 3 回締約国会議にオブザーバー参加すらしようとしていません。

日本政府に被爆国にふさわしい役割を果たさせるために、米国の核抑止力＝「核の傘」への依存をやめさせ、核兵器禁止条約への参加を迫りましょう。

そのために、2025 年年国民平和大行進は、被爆 80 年の平和行進にふさわしく、全国すべての市区町村で、職場、地域、学園で協力を広げ、被爆者の証言を聞き、原爆展の開催や被爆の実相を伝え、署名を集め、自治体意見書決議に取り組み、広島、長崎をめざします。

## 1、日程・コース

①被爆地広島、長崎をめざす行動として、全国 11 幹線コースで実施します。

5月6日北海道→東京(4 コース終結)、5月6日東京→広島、5月7日和歌山→広島、5月28日富山→広島、5月4日高知・愛媛～徳島・香川→広島、6月16日宮崎→長崎、6月15日沖縄→長崎、7月5日広島→長崎で実施し、8月6日長崎(終結)となります。

②すべての自治体を網羅する網の目の平和行進と行動にとりくみます。

## 2、主 催

提唱＝原水爆禁止世界大会実行委員会

主催＝2025年原水爆禁止国民平和大行進中央実行委員会

## 3、名 称：被爆 80 年・2025 年原水爆禁止国民平和大行進

## 4、共通スローガン

- ・被爆 80 年、核兵器も戦争ものない平和な世界をつくろう
- ・核兵器禁止条約に参加しよう！ すべての国に参加をよびかけよう
- ・核保有国に、「核軍備の完全廃絶」の約束を実行させよう
- ・核保有国は、核兵器使用の威嚇をただちにやめよ。核兵器の増強・近代化、核・ミサイル発射実験いまずぐ中止を
- ・すべての戦争に反対！ NO WAR！
- ・ガザの人びとの人権を守れ、イスラエルはパレスチナの占領をやめよ。
- ・ウクライナの侵略戦争反対！ 戦闘をやめて ロシアはただちに撤退を
- ・ノーモア・ヒバクシャ！ ノーモア・ウォー！

## 5、具体的なとりくみ

### ①「非核日本キャンペーン」をすべての自治体で

「非核日本キャンペーン」(非核の日本を実現する全国キャンペーン)をすべての自治体、地域、学校などで取り組むための要請行動を開始しましょう。

ほとんどの自治体首長が加盟する平和首長会議で採択した政府への要求や非核宣言をしている自治体、あらたに宣言した自治体へ「非核日本キャンペーン」を位置づける具体的な要求をしましょう。

「日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名」への役職者賛同署名をすすめてみましょう。自治体職員と市民に署名を呼びかけるよう、要請しましょう。

議会に「核兵器禁止条約への署名(参加)・批准を日本政府に求める意見書」決議をもらえなく要請し、全自治体での採択をめざしましょう。

原水爆禁止2025年世界大会の成功のために、平和行進の出発・集結集会で連帯のあいさつ、一歩でも二歩でも行進に参加を働きかけましょう。学習パンフの贈呈、「折り鶴」ペナントへの協力(賛助金)を求めましょう。

PTAや学校の総合の時間などを使っての被爆 80 年の学習に位置づけるよう、教育委員会などにも働きかけ、被爆者の証言や話を聞く会を開くよう求めましょう。原爆パネル、高校生の絵を展示することなどの申し入れを積極的にすすめましょう。

被爆・戦後 80 年の自治体の取り組みとして「原爆と人間パネル(日本被団協作成)」「広島・長崎・ビキニ被災展示パネル」の購入と活用を求めましょう。

行進や原爆展の主催、後援、協力を求めましょう。

## ②行進とむすんだ署名行動を

行進参加者といっしょに行進スタートの際や終了する際、辻々でのスタンディング署名・シール投票など、署名・対話で生活の要求と結びながら核兵器なくそうの思いをひろげましょう。

## ③青年、学生、高校生など次世代の平和のねがいをつなぐ平和行進に

昨年につづき県内通し行進者を配置した県の実行委員会に対し、特別支援金として1日あたり3,000円×日数を支給します。

地域住民にアピール、共感を呼ぶような行進、スタンディング、宣伝カーの運行の効果的な方法、SNSの積極的な活用など、知恵を出し合ひましょう。

全国通し行進者の果す役割を中心にすえながら、提起した具体的なとりくみを前進させるよう、ビキニデー参加者や世界大会代表を早く決めるなどし、県内通し行進者、県内リレー行進者も同時に重視しましょう。

ことしも青年、学生、高校生の行進・呼応したとりくみを支援します。(若者世代活動特別支援費※5. 財政を参照)被爆80年の行進として、47都道府県で実施を呼びかけます。県実行委員会を窓口にし、青年自身が計画できるようサポートしてください。世界の反核運動とつながれるよう、日本原水協事務局もフォローします。 ※別紙、申請書を設けます。

## ④全国通し行進者の募集と国際青年リレー行進者の配置について

ことしは全国の幹線コースにおいて、全国通し行進者の募集をおこないます。ただし、コロナ禍以降、都道府県実行委員会の行進スタイルが変化しています。都道府県実行委員会との相談の上すすめます。コロナ感染等、通し行進が難しい場合でも県から県への横断幕の引き継ぎはおこなうものとしします。

国際青年リレー行進については、希望に応じて都道府県実行委員会との相談の上、基本的に日本原水協が受け入れ、各県と体制を調整します。

※全国通し行進者の募集は別途、定めます。

## ⑤行進ペナントのあつかいについて

ことしも広島平和記念公園に奉納される折り鶴を再生した「折り鶴」ペナントを作成します。このペナントは、「核兵器のない世界、非核平和の日本の実現を求める」平和のねがいを託し、平和行進が集結する被爆地広島へ結集します。1人でも多くの方に賛同を呼びかけてください。

各団体は各都道府県実行委員会の指示に従うようお願いいたします。中央実行委員会のみなさんも普及にご協力ください。団体旗・のぼりに結ぶ場合は、ポール、旗、のぼりとともに収納する手提げ袋に入れるなどし、各団体で管理するようお願いいたします。

## ⑥中央団体リレー旗について

団体リレーの果たしてきた役割を再確認するとともに、リレー旗を出される場合には行進事務局にご連絡ください。管理については、基本的に「人から人につなぐ」ことを前提にします。リレーが可能な地域では、各実行委員会とご相談ください。コロナ禍以降、宣伝カーを出さない県もあります。引継ぎが困難な場合には宣伝カーに乗せたままにせず、持ち帰るようご協力をお願いします。郵送などは各団体の管理のもとでおこなってください。

沿道の方が共感できる行進をめざします。メッセージが書いてある団体リレー旗、旗やタペストリーなどをご持参ください。平和行進資材もご活用ください。

#### ⑦行進のとりくみ方を工夫し、行進参加者の健康と安全を第一に

そもそも、平和行進は核兵器をなくすことに賛成する人はこどもからおとなまで、誰でもどこでもどこからでも気軽に参加できる運動です。とりわけことしも連日の猛暑が予想されます。「一歩でも二歩でも」という平和行進の精神にふさわしく、歩けなくても、コロナ禍でうまれた各県のような工夫(幹線コースの時短、ポイント毎にミニ行進&ミニ集会、スタートとゴールを決めてアピールするものを持って自分のペースで歩く「おさんぽ行進」、首長もまきこんでSNSメッセージリレーほか)を大いにいかし、日中参加できない人が参加しやすい時間で Peace ナイトウォーク、提灯行進、キャンドル行進や集会など、核兵器なくそうの声をいっそうひろげましょう。

行進実行委員会加盟組織のなかでも平和行進の意義、被爆の実相を学ぶ機会をつくって学習しましょう。

参加者のケガや事故、熱中症など、懸念されている不安を解消するため、保険への加入をお勧めします。すでに活用している県の実行委員会からの詳細情報を共有します。

体調不良、感染症の対応について指定感染症等発生した場合は、感染症毎に行政機関の発行するガイドラインを基に、県実行委員会との協議の上、参加者の対応を行いましょう。すこしでも体調が悪い方は無理せず参加を見合わせましょう。

気象条件や交通事情を鑑み、行進コース・行進時間帯を検討しましょう。天気予報で警報が発令された場合は、すみやかに行進を中断、中止することをはじめ、注意報の段階でも参加者の安全を第一に考えて、各都道府県実行委員会の責任で判断をしてください。

#### ⑧平和のねがいをペナントに託して、被爆地へ

被爆・戦後80年の原水爆禁止世界大会をめざし、すべての自治体、地域の平和のねがいを託すことができる募金として「折り鶴再生ペナント」を過去最高の 16,000 本を超える普及をめざします。被爆者のねがいを共有しながら 1 人 100 円で班や職場で目標を持って募るなどし、原水爆禁止 2025 年世界大会に持ち寄りましょう。

## 6、財 政

① 中央実行委員会の財政は、基本的に中央団体の参加分担金、協力金、都道府県実行委員会の協力金および事業活動などで運営します。

② 都道府県実行委員会、市区町村実行委員会の財政は、基本的に参加団体の分担金、協力金、自治体募金、沿道募金、事業活動などで運営します。

③ 県内通し行進者を配置した県に対して、行進人数にかかわらず、1 日あたり 3000 円を都道府県実行委員会組織支援費として負担します。※申請書を別途、設けます。

④ 全国通し行進参加者の本人負担を 6,000 円にします。(昨今の宿泊料を鑑みて、1,000 円値上げ)し、全国通し行進者を受け入れた都道府県実行委員会に対して、通し行進者 1 人につき一律で 1 日 12,000 円(本人負担 6,000 円と中央実行委員会より補助 6,000 円を合算)を負担します。※通し行進者受け入れについての要請を別途、定めます。

⑤ひきつづき特別支援費として「若者世代活動特別支援費」を設けます。行進出発から終結までの全国行進期間のなかで、被爆者の声を聞く交流会や聞き取り、参加しやすい時間での核兵器なくそうパレード、街角カフェで対話・署名など、「非核日本キャンペーン」に呼応した若者世代主体の運動を支援します。基準として1)主催者に若者(高校生～30代までをめぐりに)が加わる。2)全国の行進期間中に行われる。3)一つの県につき上限を15,000円とする。としてとりくみます。※申請書を別途、設けます。

⑥被爆80年の運動を広く大きく知らせるためにも、クラウドファンディングを検討します。

## 7、行進実行委員会の機構

実行委員会の機構として、①総会、②代表委員、③事務局団体、④会計監査団体を設けます。全国的な経験交流を目的として、年内に総括会議を、総会と結んで都道府県代表者会議を開催します。※別途、定めます。

以上